

主要な自然地形

地形分類	土地の成り立ち	地形から見た自然災害リスク
台地・段丘	周囲より階段状に高くなった平坦な土地。周囲が侵食により削られて取り残されてできる。	河川氾濫のリスクはほとんどないが、河川との高さが小さい場合には注意。縁辺部の斜面近くでは崖崩れに注意。地盤は良く、地震の揺れや液状化のリスクは小さい。
天井川	周囲の土地より河床が高い河川。人工的な河川堤防が築かれることで、固定された河床に土砂が堆積してできる。	ひとたび天井川の堤防が決壊すれば、氾濫流が周辺に一気に広がるため注意が必要。
旧河道	かつて河川の流路だった場所で、周囲よりもわずかに低い土地。流路の移動によって河川から切り離されて、その後、砂や泥などで埋められてできる。	河川の氾濫によって周囲よりも長期間浸水し、水はけが悪い。地盤が軟弱で、地震の際の揺れが大きくなりやすい。液状化のリスクが大きい。

主要な人工地形

地形分類	土地の成り立ち	地形から見た自然災害リスク
干拓地	水面や低湿地を堤防で締め切って排水して、新たな陸地になった土地。過去の地形図や資料から、干拓されたことが確認できる場所。	一般に海・湖水面より低いため、洪水時に氾濫水が留まりやすい。沿岸部では特に高潮に対して注意が必要。地盤は軟弱で、地震による揺れも大きくなりやすい。液状化のリスクがある。
盛土地・埋立地	周囲の地表より高く盛土した土地や、海水面などの水部に土砂を投入して陸地にしたたり、谷のような凹地を埋め立てたりして造成した土地。	高さが十分でない場合には浸水のリスクがある。山地や台地では降雨・地震により地盤崩壊のリスクがある。低地では液状化のリスクがあり、海や湖沼・河川を埋め立てた場所では特に注意。

上記以外の地形分類と自然災害リスクの対応関係については、以下のページをご覧ください。

https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/lfc_index.html